

唐津の祭り③相知くんち（1/2）

～熊野神社 秋の大祭～

「相知くんち」は、10月の熊野神社秋の大祭です。御神輿行列の供奉として、行列の先頭を毛槍を投げあい、挟み箱(先箱)を担いで相知町の宿通りを練り歩くのが、町指定無形民俗文化財の「羽熊(はぐま)」です。

この「羽熊」が相知町で行われるようになったのには、次のような歴史があります。

もともと、この「羽熊」の行列は唐津神社の秋の大祭である、唐津くんち(現在、国指定重要無形民俗文化財)の際に行われていたものです。江戸時代末期の安政年間(1854～1859)より、毛槍や挟み箱を持ち、大名行列を模して唐津神社の御神輿を供奉する行列が、唐津くんちのまつりの中で行われるようになります。

ところが、明治6年(1873)に唐津神社から、当時の相知村の村社であった熊野神社に毛槍や挟み箱が譲られたことにより、相知において大名行列が行われるようになります。(一説には、当初は相知村の石炭採掘会社に譲られ、その会社から熊野神社に寄贈されたとも言われています)

「羽熊」とは本来、中国・チベットに生息しますヤクの尾の毛のことで、白くて艶があることから、旗や槍の飾りとして使われています。このため、いつしか大名行列の毛槍のことも「羽熊」と呼ばれるようになり、相知町ではそれが転じて、大名行列そのものを「羽熊」と称するようになります。

～2/2へつづく～

分野 文化

地域 相知

◎地図・写真・統計資料など



相知町熊野神社の「相知くんち」

(唐津市フォトライブラリーより)

◎引用・参考文献(出典)

- ◆唐津観光協会相知支所HP
- ◆唐津観光協会HP

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

唐津の祭り③相知くんち (2/2)

～熊野神社 秋の大祭～

～1/2からつづく～

相知町の「羽熊」は明治16年(1883)に、旧唐津大町年寄りの山内小兵衛によって、江戸末期の唐津くんしを思いで描かれた『神祭行列絵図』にも描かれる、先箱や毛槍の行進部分をそのまま継承した貴重な無形民俗文化財です。特に、毛槍を投げ渡しながらい進するという形は、唐津城主の小笠原家の大名行列の形態を模倣したものである事が考えられ、こうした毛槍を投げ渡しながらい進するという、往時の行列の儀式を現代まで継承した行進は、全国的にも非常に稀有な例です。(毛槍を投げ渡しながらい進する例は、他には岐阜県羽鳥群笠松町などで見られます)

分野 文化

地域 相知

◎地図・写真・統計資料など



相知くんちの宵山

(唐津んもんだよりより)

◎引用・参考文献(出典)

- ◆唐津観光協会相知支所HP
- ◆唐津観光協会HP

◎エピソード・伝承・うんちく など

■宵山について

飾り山をライトアップして町内を巡業します。相知町の地形が盆地ということもあり、霧(もや)がかかった夜にライトアップされた山笠はとても幻想的です。ハッピー姿の奴(やっこ)の先導で江戸時代の大名行列を再現。熊野神社で神前を終えて出発します。わらじ履きの奴が毛槍の「羽熊」や挟箱(はさみばこ)を持って掛け声に合わせてゆっくりと歩きます。羽熊は長さ3.45m、重さ20kgある、くると回して投げ渡す全国でも珍しい妙技が見所。掛け声は「イーハーエー、ヤットコマカーセー、ヨーヨイヤーハーノーハー!!ヤッ!!ホイ!!」最後の「ヤッ!!ホイ!!」の後に毛槍を投げ渡します。

■子供羽熊について

大人が持つ羽熊や挟箱を一回り小さくしたのを持って練り歩きます。元気よく声を出して歩く姿は、和やかな雰囲気を作ります。

■山笠について

高さが約7m(飾り部分の高さは約5メートル)ある。飾り部分は戦後、唐津市内の業者から借り受けていたが、平成11年から「製作技術を地元で受け継ぎ、手作りの山笠を曳こう!!」と一念発起し、相知町郷土芸能保存会「山笠の部」を中心に仕事の合間をぬいながら、約1年かけて作り上げます。平成16年は加美組山笠表が「衣川の戦い」、裏が「姉川の戦い」、志茂組山笠表が「西遊記」裏が「桃太郎」となります。

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html